




【 狭心症 】

心臓の筋肉(心筋)に酸素を供給している冠動脈は、動脈硬化により部分的に狭窄することで異常をきたし、その結果酸素需要が満たされなくなると胸痛や胸部圧迫感などの症状を発症します。症状が一過性で心筋へのダメージがない場合を狭心症といえます。経皮的冠動脈インターベンション(PCI)は、冠動脈の狭窄部位を経カテーテル的に拡張し、血流を良くする治療です。体表面で脈拍に触れることができる手首(橈骨動脈)、肘関節(肘動脈)および足の付根(大腿動脈)より心臓までカテーテルという管を進めます。カテーテル越しに造影剤を注入することで冠動脈を造影し、冠動脈の狭窄部位を評価します。冠動脈の狭窄部位をバルーンの付いたカテーテルで拡張し、血管内超音波などを用いて血管壁を評価してから、筒状の金属であるステントを留置します。状態がある程度落ち着いている狭心症に対する待機的なPCIは年間約280例を行っています。インターベンション治療後は、狭心症の再燃を起こさない様に内服を行います。必要に応じて術後約1年を目処に心臓カテーテル検査で評価を行います。経皮的冠動脈拡張術(PCI)を受ける患者さんはこのような入院生活を送ります。

経皮的冠動脈拡張術(PCI)を受ける患者さんへ (3泊4日)						患者さん用	
循環器内科		お名前:		責任担当医師:		担当看護師:	
項目	月日	入院1日目		入院2日目		入院3日目	入院4日目
		入院日	治療当日(治療前)	治療当日(治療中)	治療当日(治療後)	治療後1日目	退院日
達成目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>治療の必要性について理解できる。</li> <li>不安・疑問が生じた時の対処がわかる。</li> </ul>		胸痛・動悸・疼痛の出現時、医師・看護師に伝えることができる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後の生活がイメージできる。</li> <li>胸部不快感がない。</li> </ul>
治療・薬剤 (点滴・内服 ・処置 ・リハビリ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>入院前に内服しているお薬がありましたら教えてください。</li> <li>続けて内服するか医師に確認いたします。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>点滴を(検査室で)入れます。</li> <li>お薬はいつも通り飲んでいただきます。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>心電図をつけます。(治療用)</li> <li>治療の針を入れる部位を消毒し、局所麻酔の注射をします。</li> <li>手首もしくは足の付け根の動脈より心臓まで長い管を入れます。造影剤の影響で体がカチカチと熱くなりますがすぐに落ち着きます。</li> <li>治療が終了したら針を抜き、血が止まるまで医師が押さえます。</li> <li>止血の確認をして圧迫固定します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心臓の状態をみるために24時間心電図をつけていただきます。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>終了。</li> <li>安静解除時心電図をはずします。</li> </ul> 	
検査		<ul style="list-style-type: none"> <li>採血 レントゲン 心電図</li> <li>手足の血圧の比をみる検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手足の血圧の比をみる検査</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>心電図 レントゲン</li> </ul>	
活動・安静度		<ul style="list-style-type: none"> <li>制限はありません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査室には看護師と歩いていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査室で検査台に移動します。</li> <li>治療中は安静が必要です。痛みや痒みなどがある時には動かず声にだして看護師にお知らせください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査室からベッドもしくは車椅子で病室に戻ります。</li> <li>治療後の安静度については治療終了後にご説明いたします。</li> <li>治療した部位は指示があるまで動かさないようにしてください。</li> <li>固定したシーネは翌日の医師の診察時にはずします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検査部位の出血がなければ、その後から制限はありません。</li> </ul>	
食事		<ul style="list-style-type: none"> <li>病状に応じた食事が出ます。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッド上安静の場合は看護師がお手伝いします。</li> <li>造影剤を使用しているので水分は多めに摂るようにしてください。水分制限のある方は制限範囲内で摂られるようにお願いします。水分量については、看護師が治療後お知らせします。</li> </ul>		
清潔		<ul style="list-style-type: none"> <li>シャワー浴ができます。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>安静中の洗面は看護師がお手伝いします。</li> <li>赤いバンドがとれたら更衣をいたします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お身体を拭く際は蒸しタオルがございませす。</li> <li>入浴は可能です。</li> </ul>	
排泄			<ul style="list-style-type: none"> <li>治療の前に必ず御手洗をお済ませください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療室でトイレに行きたくなったらお知らせください。お手伝いいたします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベッド上安静の場合は看護師がお手伝いいたします。</li> </ul>		
患者さん及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導		<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師から入院・病棟内の説明があります。</li> <li>医師が治療について説明があります。</li> <li>治療室の看護師から治療についての説明があります。(初回のみ)</li> <li>胸の痛みなど症状が出た時は看護師にお知らせください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>治療に行く時は入れ歯(ブリッジを含む)・装飾品などをはずしてください。</li> <li>貴重品の保管にはご注意ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸から治療される場合は上半身のみ検査着に着替えていただきます。その後シャツで覆います。</li> <li>足の付け根から治療される場合はすべて検査着に着替えていただきます。</li> <li>検査室では専任の看護師がお世話させていただきます。</li> <li>気分が悪かったり、心配な事がありましたらご遠慮なくお申し出ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気分が悪い時、胸や腰の痛み、針を刺したところの痛みや腫れがある時はお知らせください。</li> <li>医師から治療の結果の説明・退院後の生活について説明があります。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後の生活についてわからないことがありましたらご相談ください。</li> <li>次回外来受診日をお知らせします。</li> <li>入院診療費請求書は退院前にお渡しいたします。</li> </ul> 

ご質問やご不明な点がありましたら、担当医師または看護師にお伝えください。予定は、お身体の状態や検査の状況で変更となる場合がございます。ご了承下さい。  
東邦大学医療センター 大森病院  
平成31年2月12日改訂